

議 題 第50回篠山市総合計画審議会 会議録
日 時 平成22年8月2日(月)19時30分～
場 所 篠山市役所 本庁舎 301会議室
出席委員 山鳥嘉彦、上見重信、加藤哲夫、藤本光彦、小森星児、
横山宜致、吉田栄治、藤本悦郎、西尾純一、堀江溢雄、
團野和人
欠席委員 羽田登喜雄、西尾和磨、柳本晃代、並河達也、石田成正
(敬称略・順不同)

1. 開 会

2. あいさつ

3. 審議事項

(1) 「篠山市総合計画について(答申)」について・・・資料1 資料2 資料3
(事務局)資料1・2・3について、前回からの修正点を説明。

小森委員から提案のあった追加項目「田園景観の保全、整備、創造について」を説明。

(会 長) キャッチコピーのサブタイトルから審議を行う。「ふるさと日本一丹波篠山」よりも「丹波篠山スタイルを目指して」というサブタイトルのほうがいいのではないかと意見が前回審議会において出されたが、このことについて審議をお願いする。

(委 員) 全体の中で「ふるさと日本一」という説明がないなかで、サブタイトルにだけ出てくるのはおかしい。また、ふるさと日本一ということの具体的なことが分からない。ふるさと自体は、個人それぞれによって価値観が異なるものであり、比較しがたいものである。

また、篠山出身のご主人が篠山出身でない奥さんと一緒に都会から戻ってこられるような場合に、ご主人のふるさとが篠山であったとしても、奥さんから見た場合は、今まで住んできたところがふるさとであり、篠山がふるさとというわけではない。そのような方からすると、「ふるさと日本一」という言葉には違和感を持たれるのではないかと。

総合計画(案)にも出てくる「丹波篠山スタイル」という言葉がいいのではないかと。「目指して」よりも「求めて」がいいのではないかと。

(委 員) はじめは「ふるさと」という言葉を残してほしいと思っていたが、二つのサブタイトルを比べると、これまで審議会で議論してきた、篠山をどうしていくかということは、「丹波篠山スタイルを目指す」ということだったのではないかと感じる。

(委 員) スタイルとはどのような意味であるか。「丹波篠山らしさ」であれば、理解できる。スタイルという言葉では、説明に困る気がする。

(委 員) 「丹波篠山スタイル」にするのか「篠山スタイル」にするのかでも随分異なり、丹波という言葉をつけることに抵抗を感じる人もいるのではないかと。ブランドイメージという意味では、丹波とつけるのもいいかもしれない。

- (委員)現在の第一次基本構想においても「丹波篠山」という言葉を使用している。
- (委員)私だけが「丹波」とつけるのを相応しくないと考えているのだろうか。審議会において諮っていただきたい。
- (委員)デカンショ節にも「丹波篠山」と使っているし、昔から篠山には「丹波」がセットとなっていた。最近になって、他市町において「丹波」という名前を使われるところがあり、丹波という言葉に危機意識を持っている方がおり、「丹波」という言葉を意識しているのではないか。
- (委員)市外で話をする時にも、「篠山」と言っても分かってもらえないが、「丹波篠山」と言えば分かってもらえることが多く、丹波と篠山はセットのように思う。
- (委員)既に丹波篠山スタイルというものはあるのではないか。あるものであれば、「目指して」よりも「生かして」のほうがいいのではないか。
- (委員)「らしさ」というと、今あるものに収まってしまうように感じるが、「スタイル」というと、新しいものを作っていくことが含まれるのでいいのではないか。
- (会長)「丹波篠山スタイルへまっしぐら」というのはどうか。
- (委員)少しやりすぎのように感じる。
- (委員)あくまでも答申であるので、「丹波篠山スタイルを目指して」ということにして、今後は市へ任せてはどうか。
- (会長)「ふるさと日本一丹波篠山」は採用せず、審議会から絶対にこのサブタイトルであるという答申は行わず、総合計画におけるサブタイトルは市へお任せすることとする。
- 小森委員からの追加項目の提案に対して意見はあるか。
- (委員)「昔はありふれた風景だった篠山盆地の景観は」とあるが、「昔」というのは、どれくらい前を思われているのか。
- (委員)農業の機械化がされる前や、基盤整備が行われる位の時を思っている。
- (委員)「土地利用に関する権限の多くが篠山市に移譲される見込み」とあるが、篠山市に限ったことではないので、「篠山市」ではなく、「市」だけにしたほうがよいのではないか。
- (会長)「篠山」を削除し、そのほかについては加筆していいか。
- ～全委員 異議なし～
- (会長)資料1 19頁から35頁の基本構想部分について審議をお願いします。
- (委員)20頁「市民や地域の動きを市全体として調整しながら」とあるが、誰がどうやるかが書かれていないし、無くても意味は変わらないので、削除したほうが分かりやすいのではないか。
- 20頁「突き詰めていくと、米作りを通じて築かれてきた人と自然の理にかなった関係、そこから生み出された歴史と文化、景観」とあるが、分かりにくい文章になっている。「米作りを通じて築かれてきた歴史と文化、景観」としたほうが、分かりやすいのではないか。
- 35頁「歳入と歳出のバランスを均衡させ」とあるが、歳入と歳出自体は常に均衡は取れているものであり、均衡を取るために負債をしている。その点において、表現が適切でない。

35頁「計画、実行、評価、改善」とあるが、マネジメントの分野において使われるPDCAのことであり、PDCAと補足したほうが分かりやすいのではないかと。また、基本構想部分で、PDCAを課題として提起している以上は、これから5年間の前期基本計画においてはPDCAを行うことができる仕組みを作っておかなければならない。

(委員)「丹波篠山スタイル」と「篠山スタイル」という言葉が使われているので、統一したほうがいい。

(委員)20頁「そのような篠山市には」とあるが、ここでは篠山市のことを言っているのは当然なので、あえて入れる必要はないのではないかと。

6頁の沿革図において、平成11年の篠山市となった合併のところに「(篠山町)」とあるのはなぜか。

(事務局)篠山町として合併することが合併協議会で合意された後、市となることのできる要件が変更され、篠山市となることになった。そのため、事務手続きにおいては、一度合併して篠山町になった後に篠山市となっている。

(委員)住民としては、結果が分かればよいので、(篠山町)は必要ないと思う。記載するかどうかは、行政の判断にお任せしたらどうか。

5頁「年格差、日格差」とあるが、正しくは、「年較差、日較差」である。

6頁「寺内に古代寺院が置かれました。」とあるが、瓦が出土しているものの、古代寺院があったという確証はないので、ここまでの記述は控えるべきではないかと。

8頁「それぞれが持てる技術や力を出して」及び「今回の計画では、これらの結びつきを組み合わせ、力が出せる関係を構築していくことがその第一歩となるでしょう。」というの、必要ないのではないかと。若しくは、「今回の計画が、その第一歩となるでしょう。」とすればいいのではないかと。

15頁「その際、施設や事業とお金の関係だけでなく、そこに関わる人の存在を大切に、人材育成を図っていくことが重要です。」とあるが、直前に「適切なのか問い直す必要があります」と記載しており、そこに含まれていることであり、記述の必要はないのではないかと。

16頁に「新しい公共」について記述されているが、ここではこれまでからある形のをあげているだけであり、これからの形の新しい公共を説明できていないので、このままの記述であれば削除したほうがいい。

18頁 5 これからのまちづくりに向けた解決の糸口 (1)人與人、地域と地域などの結びつきを見直す において、「学力も成功もすべてその人次第」とあるが、「成功も失敗もすべてその人次第」の間違いではないかと。また、例があげられているが、ここまで細かな例は必要ないのではないかと。

(委員)18頁に「まちづくりのアイデアは若者・よそ者・バカ者から生まれると言われる」とあるが、総合計画には相応しくない表現ではないかと。

(委員)そのようなことを表現する言葉としては、インパクトのある言葉として割と普遍的に使われている表現のように思う。

(委員)この点について、審議会で諮って欲しい。このままでいくのか、変更するか方向性だけでも決めていただきたい。

(委員)ショック療法としては、記述したままでいいと思っている。気品に欠ける表

現という指摘はもっともだと思うが、ほかでどのように使われているかも調べてみて、残してもいいのではないか。この言葉自体は、現状を踏まえた上で、衝撃的ではあるが力のある言葉として事務局は選ばれたのではないか。今後、パブリックコメントや議会において広く意見を聞いていく中で、気品に欠けるのではないかという意見があがってくれば、それはご指摘のとおりであるので、対応いただけたらと思う。

- (会長) 今後のパブリックコメント等での意見により対応いただくこととする。
- (会長) 資料2について、意見はあるか。
- (委員) 施策指標があがっているが、他自治体では、最近はアウトプットとアウトカムをそれぞれ書くようにしているものが多い。今の案では、施策指標はアウトプットばかりになっているのではないか。長期的な目標としては、アウトカムを提示する必要があるのではないか。
- (事務局) 委員のおっしゃるような事業を行うことによって地域にどのようなアウトカムがあるかが重要と考えており、行政評価を担当している行政経営課を中心に施策指標を検討しており、ご指摘のあったとおりの方向で考えている。
- (委員) パブリックコメントでは、どこまでを公開し対象とするのか。
- (事務局) パブリックコメントは、基本構想と基本計画を9月の中旬頃に行えたらいいと考えている。
- (事務局) 資料3について説明
- (委員) 審議会においては、前期基本計画案自体を審議したことになるのか。
- (事務局) 前期基本計画案の施策体系と施策様式のみを審議したものとして答申いただく。
- (委員) 答申文書において、前期基本計画自体を審議したかのように誤解されかねない表現になっているので、あくまでも前期基本計画の施策体系と施策様式のみを審議したことが分かるように表現を変更する必要がある。
- (委員) 施策様式自体は、ほとんど審議していない。審議会としては、施策体系の大項目の部分を基本構想部分の審議において審議しただけなので、施策体系としては答申しなくてよいのではないか。
- (会長) 答申は、基本構想案のみでいいか。

～全委員 異議なし～

4. その他

- ・ 今後の予定について

2年間の任期を例外的に延長して、現在までお世話になっていたところであり、本日の第50回の審議会をもって、第5期総合計画審議会委員の任期を終了とさせていただきます。今後総合計画審議会を開催する必要がでてきた場合は、新たな委員を選任して進めさせていただくこととする。

答申は、平成22年8月9日に会長及び副会長から市長へ行う。

5. 閉会